

シグマ研究委員会・核構造・崩壊核データ専門部会
燃料サイクル核データワーキンググループ第7回会合議事録

日 時 昭和55年 9 月 19 日(金) 13 : 30 ~ 17 : 30
場 所 原研本部第 7 会議室
出席者 関口, 西村, 湯本(小泉代理), 一宮(高橋代理), 槇(講師,
PNC), 桂川, 松田, 梅沢 以上 8 名
欠席者 久武, 住田, 田村, 松浦, 荒木, 黒井, 佐藤, 長部

配布資料 7-1 “再処理における核データの問題” (槇)
7-2 “濃縮・資源における核データの問題” (桂川)

議 題

- (1) 再処理における核データの問題検討
- (2) 濃縮・資源における核データの問題検討
- (3) 今後のまとめ方について

議 事

1. 再処理における核データの問題について

槇氏(動燃)から説明があり, 討論された。使用済燃料中の放射性核種(FPおよびアクチニド)を計算で求めることが必要であり, そのために必要な核データの要求がある。FP核種としては, ^{85}Kr , ^{129}I , ^{106}Ru , ^3H などが必要である。

2. 濃縮資源の分野における状況について桂川委員から説明があり, 討論された。

資源探査, ウラン採鉱精練およびウラン同位体濃縮の過程では, 核データの必要性はほとんど見当らない。ただし, リサイクルウランの処理時には, 通常の質量分析では測定にかゝらない ^{232}U 蓄積量を把握する必要があり, 照射中の生成量評価及び娘核種による γ 線量率評価に必要なデー

タがいる。

3. 崩壊核データについては、これまで誤差も小さいと評価されていたデータで、真値とはかなり異っていたケースもあり、重要なデータについては、ケース・バイ・ケースで再検討の必要性が指適された。
4. 今回までで燃料サイクル各分野のレビューがひととおり終了したので、今後の作業につき、次のようにまとめられた。
 - ① 各分野ごとに行われる仕事の内容を概説し、そこで核データがどのように使われているか、必要な精度、問題点の有無を記述する。これは各分野のレビュー担当者に依頼する。
 - ② 核データ関連問題を各分野を横断してまとめ、使用目的の分類、要求、問題点の有無を整理して記述する。これは、西村、田村委員らに依頼する。
 - ③ 本調査の結論をまとめ、提案の形にまとめる。これは事務局（梅沢）が各委員に適宜相談して原案を作成する。
 - ④ 以上の作業を12月又は1月までに実施し、ドラフトを各委員に配布する。1月又は2月頃の会合において、最終的に検討する。
5. なお、すでに配布した前回議事録につき説明があり、承認された。

以上